発見！熊野町のエエところ。

シリーズ第1弾

今、各地で地元を見直す動きが強くなっています。各地にある名所や名物。もちろん熊野町にもたくさんあります。そんな町内に埋もれた、さまざまなモノ・場所などの「**エエところ**」を紹介して、発見、再確認していく新コーナーです。

今回は 平谷地区 のエエところを紹介します。

「旧平谷村と本庄村の文書」

このほど旧平谷村の古絵地図、明治時代の文書や、明治22年に、平谷・川角・押込・苗代・栃原が合併して本庄村が発足した当時の議会記録が多数見つかった。

絵地図は鮮やかな彩色で描かれている。制作年代は特定できないが、「社倉」と現在は的場神社の境内にある鎮守社が、旧地に描かれているので、二百数十年前に作成されたと思われる。

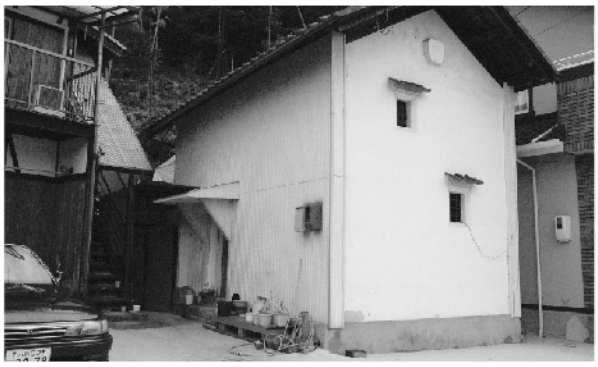
「平谷村の社倉（しゃそう）」

今回発見された絵地図から、中野義治氏所有の「蔵」が、江戸時代の「社倉」である事が判明した。「社倉」とは救済施設で飢饉に備えて穀物（麦）を備蓄する「蔵（土蔵）」のことである。

矢野尾崎神社の神官、香川将監（かがわしょうげん）が矢野村で、延享4年（1747年）に社倉法を実施したのが始まりである。平谷村では宝暦7年（1757年）に社倉法実施。天明6年（1786年）までに藩全域に及んだ。平谷の社倉は昭和十年代に茅葺きから、瓦葺屋根に変更しているが、当時の姿を十分に保っている。

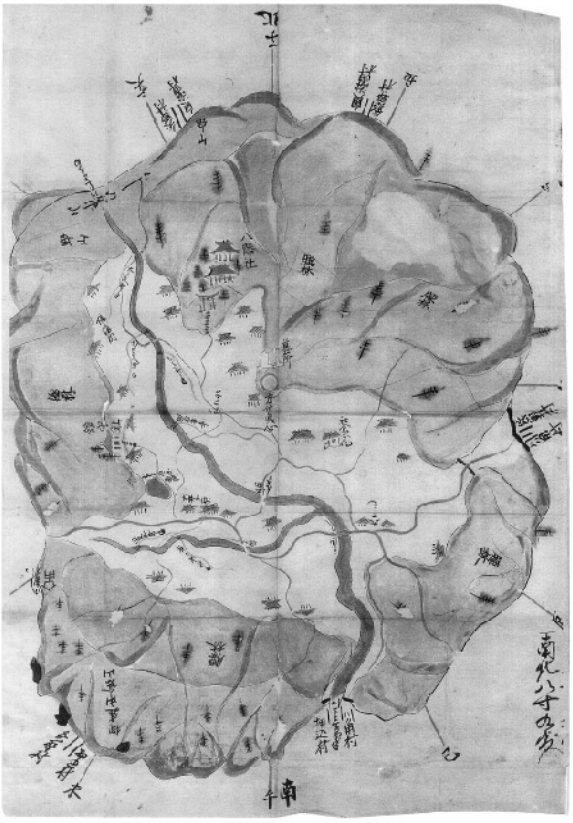
広島藩内八百あまりの中で、いち早く取り入れた社倉が熊野町に2箇所（川角織田家社倉＝文化財）も保存されている事は非常に意義深いものがある。

（文＝郷土史研究会会員　梶矢　祥弘）



広報委員もこの絵地図などを見せてもらいましたが、墨の単色ではなく、色彩溢れる地図で、平谷地区の主な通りや神社、河などが細かく描かれており、見る者を楽しませてくれます。

熊野町の、平谷地区の歴史を語る、非常に貴重な財産ですね。



見つかった絵地図の一枚

細く小さな筆文字で書かれた絵地図